

2024. 3. 29

松戸駅周辺まちづくり委員会 水・みどり・歴史部会 会議内容

諮問事項

新拠点ゾーン パブリックスペースから考える

松戸中央公園及び相模台公園のリニューアルについて

【1回目】 水・みどり・歴史部会 令和4年7月28日 開催

1. 議事

- ◆ これまでの経過報告
 - ・ アンケート調査1 実施状況について
- ◆ 今後の取り組みについて
 - ・ ワークショップ1,2
 - ・ アンケート調査2

2. 意見

① アンケート調査について

- ・ 結果だけで公園の使い方を判断するのはなかなか難しい。この結果を参考に公園の将来を考えること。

② ワークショップの実施について

- ・ 参加者が公募で集まらないのであれば、相模台小（近隣の小学校）の先生に相談するとよい。
- ・ 市民の意見を聞き、人を引き付ける仕掛けをつくることが大切。

③ その他

- ・ コロナ禍で公園などを散歩する人が増えた。新拠点ゾーンや江戸川を巡る回遊型の散歩コースができると良い。
- ・ 松戸はみどりがあり、野菜もつくっていて適当に田舎。持続可能なまちという観点からも、上手く仕掛けられれば松戸らしい魅力を発揮できるようになる。
- ・ 新拠点ゾーンから江戸川までのシンボル軸の整備と合わせ、松戸のネギ・ナシ・山崎直子さんの宇宙カボチャなどを利用したソフト事業（観光的なものも含む）も並行して進めると良い。

1. 議事

- ◆ 全体スケジュール
- ◆ これまでの活動報告
 - ・ アンケート調査1の結果報告
 - ・ ワークショップ1.2の実施報告
- ◆ 今後の取り組みについて
 - ・ ワークショップ3.4について
 - ・ アンケート調査2について

2. 意見

① アンケート調査1（利用の現状把握等）の結果について

- ・ 市民意見を聴取するプロセスとして行い、その後にクリエイティブなワークが必要になる。
- ・ 浮かび上がってこないニーズを更に考えるプロセスが必要となる。
- ・ 様々な意見をもとに多角的に検討し、オンリーワン、ナンバーワンの要素を取り入れることが必要ではないか。

② ワークショップ1.2について（対象：小学6年生・保護者）

- ・ 小学校の児童や保護者の方々が主体的に関わった良い取り組み。松戸市への愛着が育まれる。

③ その他

- ・ ハードのプランをつくと同時に、誰が運営をしていくのか考えること。公園で実際に事業をする人たちの要望をきちんと織り込んでおく必要がある。
- ・ 松戸中央公園と相模台公園の2つの公園（オープンスペース）があるメリットを生かし、防災面においても良い公園にして欲しい。
- ・ 新拠点ゾーン及び公園に求められること
 - 子どもたちが自然を学べる貴重な場
 - 憩い、楽しみ、遊びながら、異世代交流ができる場
 - 冒険的な遊びができるプレイパーク
 - 駅近のメリットを生かし、サテライトオフィス等
- ・ ワークショップ1.2は、小学生の児童とその保護者を対象に行ったので、ワークショップ3.4は、ある程度幅を広げた方がよい。また、市内に4つの大学があるので、ワークショップには学生にも参加してもらい、学生の視点から意見をもらえるとよい。

1. 議事

- ◆ 全体スケジュール
- ◆ これまでの経過報告及び、公園の整備方針について
 - ・ワークショップ3.4の実施報告
 - ・アンケート調査2の結果報告
 - ・松戸中央公園・相模台公園のリニューアルの整備方針（案）について

2. 意見

- ① ワークショップ3.4について（参加者：近隣自治会、商業者、まちづくり団体、大学生）
 - ・ みどりがあるから、ここに住んでいる人が多いと感じた。既存のみどりの生かし方が重要。
 - ・ 日常の暮らしの中でいかに公園を使って楽しむかということがポイント。
 - ・ 駅の近くにある利点を生かし、近隣住民以外の人も楽しめる場所になると良い。
- ② アンケート調査2（公園に求められる機能等）の結果について
 - ・ 10代、20代が「動」活動であれば、高齢者が「静」みどりや癒しを求める傾向にあり、世代ごとに特徴が表れた。様々な意見があり、どのように計画に打ち出していくのか選択肢が多い。
 - ・ 結果を見ると無目的滞在が上位にあるが、松戸には何となく出かけて散歩したり、ちょっと座って休憩できるような場所がない。
- ③ リニューアルプラン（整備方針）について
 - ・ 松戸駅周辺の防犯状態を改善することが課題のひとつ。あらゆる世代の人が、安心して過ごせる空間をつくること。
 - ・ 公園整備が新拠点ゾーンの核となり、松戸駅周辺の賑わいと活性化に繋げる視点が大切なこと。
 - ・ 人々が憩える場を維持するために、整備後の維持管理をしっかりと行うこと。
 - ・ 防犯やユニバーサルについては、マイナスにはいけない項目。
 - ・ デザインで犯罪を抑止する手法を取り入れると良い。
 - ・ 防犯では死角をつくらないようにすることが重要。アイレベルの見通しを確保する植栽管理の必要がある。
 - ・ そのままみどり（里山）を残すよりも、21世紀の森と広場のように、活用できる形にして残すことが、未来を担っている子どもたちのためになる。
 - ・ 大きな箱ものをつくるということではなく、「何をするのか、どのように使うのか」を徹底的に利用者の視点から考え、空間をいかに活用するかを考えること。）
 - ・ イベントなど公園をより活用していくために、電気、水道など（インフラ）の部分が整備されると良い。
 - ・ 整備方針の最初に、大前提となる事項「安全・安心、子育て、ダイバーシティ、ユニバー

サルデザイン、生物多様性」を掲げた方が良い。

④ スケジュール、進め方について

- ・相模台公園と隣接する新拠点ゾーン南側の土地の利用が決まらなると、今検討しているリニューアルプランが様変わりする可能性もある。南側の土地の利用が決まってから更に公園の再整備について検討する時間があつた方が良い。
- ・基本設計をつくるまでに、数回、部会を開催して意見を伺うようなプロセスを踏む等、全体の進め方を含めて再検討して欲しい。

別表 新

都市部会名簿

(敬称略)

	役職	氏名	所属団体・役職
1	部会長	横張 真	東京大学 大学院工学研究科 教授
2	副部会長	太下 義之	同志社大学経済学部 教授
3	部会員	轟 朝幸	日本大学理工学部交通システム工学科 教授
4	〃	岩田 富久司	松戸市商店会連合会 顧問
5	〃	恩田 忠治	松戸市町会・自治会連合会 会長
6	〃	入江 和彦	松戸商工会議所 専務理事
7	〃	山下 弘	財務省関東財務局千葉財務事務所 所長
8	〃	松永 浩行	UR都市機構 東日本都市再生本部 副本部長
9	〃	伊東 朱美	松戸市 総合政策部 部長
10	〃	小川 哲也	松戸市 経済振興部 部長

水・みどり・歴史部会名簿

(敬称略)

	役職	氏名	所属団体・役職
1	部会長	横張 真	東京大学 大学院工学研究科 教授
2	副部会長	太下 義之	同志社大学経済学部 教授
3	部会員	秋田 典子	千葉大学 大学院園芸学研究科 教授
4	〃	長江 曜子	聖徳大学児童学部児童学科 教授
5	〃	横井 のり枝	日本大学経済学部 教授
6	〃	田中 孝	松戸市町会・自治会連合会 本庁地区長
7	〃	林 護	松戸駅周辺活性化推進協議会 会長
8	〃	宇野 晃一	千葉県東葛飾土木事務所 次長
9	〃	伊東 朱美	松戸市 総合政策部 部長
10	〃	小川 哲也	松戸市 経済振興部 部長

2023. 7. 11 現在